

大吉原展

江戸アメイジング

江戸のメディア王も、
新進気鋭のクリエイターも最新のエンタメも
ここから生まれた！

THE GLAMOROUS CULTURE OF EDO'S PARTY ZONE
YOSHIMWARA

展

2024年 3 / 26 (火) — 5 / 19 (日)



[展覧会公式ホームページ]
Exhibition Official Website
<https://daiyoshiwara2024.jp/>

東京藝術大学大学美術館
(台東区上野公園)

休館日

月曜日、5/7(火)
ただし4/29日、5/6日は開館

開館時間

AM 10:00 - PM 5:00
(入館は閉館の30分前まで)

主催
輸送協力

東京藝術大学、東京新聞、テレビ朝日
日本航空、日本貨物航空

特別協力
後援

台東区立下町風俗資料館、千葉市美術館
台東区 助成

藝大フレンズ賛助金

開催趣旨

約10万平方メートルもの広大な敷地に約250年もの長きに渡り続いた幕府公認の遊廓・江戸の吉原は、他の遊廓とは一線を画す、公界としての格式と伝統を備えた場所でした。武士であっても刀を預けるしきたりを持ち、洗練された教養や鍛え抜かれた芸事で客をもてなし、夜桜や俄など季節ごとに町をあげて催事を行いました。約250年続いた江戸吉原は、常に文化発信の中心地でもあったのです。3月にだけ桜を植えるなど、贅沢に非日常が演出され仕掛けられた虚構の世界だったからこそ、多くの江戸庶民に親しまれ、地方から江戸に来た人たちが吉原見物に訪れました。そうした吉原への期待と驚きは多くの浮世絵師たちによって描かれ、葛屋重三郎(つたやじゅうざぶろう)らの出版人、文化人たちが吉原を舞台に活躍しました。

江戸の吉原遊廓は現代では存在せず、今後も出現することはありません。本展では、今や失われた吉原遊廓における江戸の文化と芸術について、ワズワース・アテネウム美術館や大英博物館からの里帰り作品を含む国内外の名品の数々で、歴史的に検証し、その全貌に迫ります。

「大吉原展」開催について

本展は、近代日本美術の原点に位置づけられる高橋由一の《花魁》(1872年)から着想されました。由一が依頼に応じて描き残そうとした〈廃れゆく花魁の姿〉とは何を意味していたのか——。その答えは江戸時代の吉原遊廓そのものであったように思います。遡れば寛政期には葛屋重三郎や大田南畝らの文化人ネットワークが紡ぎ出した知的な遊びの文化がありました。また、近代になって鑄木清方が酒井抱一を慕い樋口一葉の『たけくらべ』を愛読したことに感じ取れる江戸情緒への憧憬は、吉原が育んだ世界と切り離すことができません。そこには四季の移ろいと共に生きた江戸の人々の美意識がありました。近代が切り捨てていったものを、そのままに捉え直してみたいという気持ちから、私はこの展覧会を企画しました。遊廓は現在の社会通念からは許されざる制度であり、すでに完全に過去のものとなっています。それゆえに失われた廓内でのしきたりや年中行事などを、優れた美術作品を通じて再検証したいと思います。

古田亮(東京藝術大学 大学美術館教授、美術学部近現代美術史・大学史研究センター長)

本展構成

●展示室全体で吉原の五丁町を演出！吉原の町を見物しているような展示を予定しています。



第一部 入門編

約10万㎡もの敷地につくられた幕府公認の遊廓「吉原」とは？吉原の文化、しきたり、生活などを、厳選した浮世絵作品や映像を交えてわかりやすく解説します。

第三部 体験編

名品の数々で体感する吉原ワールド！展示室全体で吉原の五丁町を演出！浮世絵を中心に工芸品や模型も交えてテーマごとに作品を展示し、吉原独自の年中行事をめぐりながら、客の作法や遊女のファッション、芸者たちの芸能活動を知ることができます。

第二部 歴史編

「吉原」約250年の歴史を一挙紹介！～江戸初期から幕末・明治まで～

風俗画や美人画を中心に、吉原約250年の歴史を紹介。江戸時代の名品の数々から、高橋由一の《花魁》を経て変容していく近代の様相までを通覧します。

江戸風俗人形

辻村寿三郎の人形が並ぶ吉原の妓楼「三浦屋」の立体模型で遊女の生活を紹介します。

みどころ

■約 250 年もの間続いた江戸吉原の歴史・文化を美術を通して検証

菱川師宣、英一蝶、喜多川歌麿、鳥文斎栄之、歌川国貞、葛飾北斎、酒井抱一、高橋由一、鏗木清方らの作品が一堂に！

様々な絵師たちが描いた風俗画や美人画を紹介しながら江戸時代の吉原の変遷を辿り、高橋由一の《花魁》を経て変容していく近代の様相までを通覧します。なお、東京藝術大学大学美術館が所蔵する重要文化財《花魁》は現在修復作業中。本展では、修復後、初の展示となります。

■実は江戸文化の発祥地！吉原の洗練された文化と独特の風習を紹介！

鳥居清長、葛飾北斎、歌川広重など、厳選した浮世絵などから、遊女たちの教養やファッション、しきたりや独自の風習を紹介します。

■展示室で町並みを再現！年中行事やランドマークで吉原訪問

圧巻！3メートル四方の巨大ミニチュアワールド「三浦屋」と辻村寿三郎の江戸風俗人形を展示

展示室全体を吉原の町に見立て、大門、高札、桜、常燈明、見返り柳など、当時のランドマークをめぐることで、吉原の町の疑似体験が可能になります。また、辻村寿三郎の江戸風俗人形が並ぶ吉原の妓楼「三浦屋」の3メートル四方の立体模型も必見です。

■ワズワース・アテネウム美術館や大英博物館の名品の数々が里帰り！

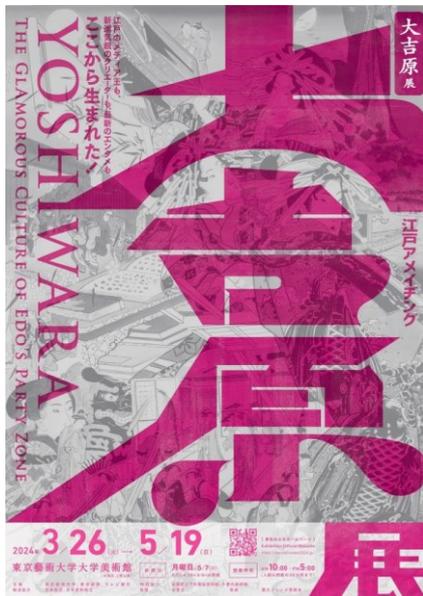
ワズワース・アテネウム美術館から日本に里帰りする喜多川歌麿の《吉原の花》のほか、大英博物館が所蔵する喜多川歌麿、歌川国貞、鳥文斎栄之、鳥居清長、勝川春潮らの名作の数々を展示します。

■メインビジュアルは福田美蘭さんの描きおろし《大吉原展》！会場では完成版を展示！

本展のメインビジュアルに使われている作品は、現代美術作家・福田美蘭さんの描きおろしである《大吉原展》。本展に出品される作品の数々をモチーフに、花魁や吉原の町並みがモノクロで描かれています。会場では、このメインビジュアルをもとに、福田さんがさらに色付けを施した《大吉原展》の完成版を展示いたします。

福田美蘭さんコメント

メインビジュアルを絵画作品として完成させるために引用した浮世絵に準じて彩色する予定だったが、デザイナーにより制作されたロゴは、私が生み出すことの無い、意表を衝くイメージであったことに意識が覚醒し、ぬり絵のように平凡な彩色は、当時の吉原の人達にとっては野暮なことであって、ピンクのロゴの形を出来るだけそのまま借用し、モノクロームの画面に描いた動き、スピード、奥行きに連動するように再構成することが、吉原の持つ進取果敢な精神に通じるように思った。遊女の教養、粋な若衆、流行りものなどの闊達さは、封建的で、束縛された内向的なイメージを突き崩し、軽やかで巧みな異なるものとながってゆく、その力強さをこの彩色で表現しようと思った。



本展メインビジュアル



福田美蘭《大吉原展》 2024年 作家蔵

主な出品作品



英一蝶の布袋と唐子の図が掛けられている

三味線、鼓、太鼓の演奏をする芸者衆

花笠踊りを舞う踊り子

次の演目の準備で、衣装を確認している様子

砂子の金雲をたなびかせた水墨山水の屏風

蝋燭の芯を切っているところ

もてなしを受ける武家の女性たち

毛氈(もうせん)に座る花魁を囲む振袖新造や禿がいる

ひそひそ話をする花魁と芸者

豪華な菖蒲模様の打掛と龍の帯の花魁が同じ鳳凰模様の着物を身につける振袖新造を従えている

男装をしている女芸者

喜多川歌麿《吉原の花》

寛政5年(1793)頃 ワズワース・アテネウム美術館

Wadsworth Atheneum Museum of Art, Hartford. The Ella Gallup Sumner and Mary Catlin Sumner Collection Fund

一軒の引手茶屋の一階と二階の様子を大画面に細かに描き出した、歌麿の肉筆画の中でも最大級の作品で、描かれた人物は全員女性である。女性たちだけで宴会をしたらどれほど美しい光景だろうかという空想の世界は、まさに吉原の絵空事を描いたもので二階に22人、一階と通りに30人、総勢52人を描き分けた渾身の作である。圧倒的な描写力によって、あたかも現実に繰り広げられているかのようなドラマ性を生み出している。

本作は、《深川の雪》《品川の月》とあわせて三部作として知られており、親交のあった栃木の豪商・善野家からの注文を受けて描いたと考えられている。そうしたスポンサーとの関係も考慮しなければならず、実在する店のようにも見られるが、画面の右端に置かれた用水桶に書かれた文字や、手前に置かれた提灯ではこの店の特定にはならず、吉原のどの場所、どの茶屋ということ特定できない、むしろさせないということなのであろう。制作年代については、仲之町に植えられた桜が目安となる。通りの中央に柵で植え込みをつくり整然と並べるようになった正確な年は不明ながらも、ボストン美術館では1791~1793年(寛政3~5)作としている豊国の《桜時の吉原仲之町》ではそのように描かれている。本作の制作時期はそれ以前と推定され、1793年(寛政5)頃とする先学の研究と齟齬はないが、若干早まる可能性もあるだろう。



高橋由一《花魁》[重要文化財]

明治5年(1872) 東京藝術大学

当時全盛の花魁であった、角町稲本屋昭三郎（稲本楼）の四代目小稲（こいな）を描いた肖像画。その制作について『東京日日新聞』

（1872年4月28日）の記事は、ある人が遊女の姿が変わり兵庫や下げ髪といった遊里の草創期から伝わる結髪が廃れるのを残念に思い、これを油画に描き残して古典を保存しようと高橋由一に制作依頼したと報じている。由一は江戸吉原が培ってきた花魁の姿を後世に残したいという依頼に応じて、油彩画の特性を活かしてその美粧を構成する様々な要素を丹念に記録している。

由一の弟子によると、完成作を見た小稲は私はこんな顔じゃありませんと泣いて怒ったという。錦絵の美人図にみられる類型化された表現とは異なり、由一の筆は徹底した質感描写がうみだす物質的リアルさゆえに、花魁が纏う神秘性を剥ぎ取ってしまったともいえるだろう。



鳥文斎栄之《畧六花撰 喜撰法師》

寛政8-10年(1796-98)頃 大英博物館

貝合わせの貝を一对手にしている遊女は、朗らかな表情で口元を緩め、お歯黒をした歯が見えている。ただ一对の貝以外は合わせることができないことから、貞節や良縁の象徴であり、遊女にとっては馴染客との縁も重ねられるのであろう。六歌仙を遊女にやつした六枚のシリーズで、本図では喜撰法師の著名な和歌「我庵はみやこのたつみしかそすむよを宇次山と人はゆふなり」のカルタが上部に描かれている。貝には箏を奏する姫君を籬の影から覗く貴人が表されている。歌麿が蔦屋と組んで大首絵で大成した頃には、栄之がこの様式に取り組むことはなく、主に全身座像や立像を描いていた。

©The Trustees of the British Museum.



喜多川歌麿《納涼美人図》

寛政6-7年(1794-95)頃 千葉市美術館

展示期間：4月23日（火）～5月19日（日）

新潟の豪農の家に伝えられた佳品で、七代目の主人が江戸へ旅した際に、実際に歌麿に頼んで描かせたという伝来を持つ。襟を開き足をくずした、しどけない姿の美人が、唐風の水花盆を傍に座している。保存状態は完全に近く、丁寧細緻に引かれた線や色彩の筆運びひとつひとつが生々しく観察できる。寛政中期は、版画においても最盛期であり、歌麿の筆力のさえる肉筆の希品である。



勝川春潮《吉原仲の町図》
寛政(1781-1801)前期 大英博物館

描かれた総勢 14 人の登場人物たちは、この絵の中で展開するドラマのなかで一人一人が個性を持っているが、定紋や持ち物などで実在した人物かどうかを特定することは極めて難しい。この場面の設定は、茶屋に向いた花魁道中と、茶屋での遊興を楽しみながらそれを迎えている遊客と芸者たちとの対面シーンである。

©The Trustees of the British Museum.



人形・辻村寿三郎、建物・三浦宏、小物細工・服部一郎《江戸風俗人形》
昭和 56 年(1981) 台東区立下町風俗資料館 撮影：石崎幸治、写真提供：三浦佳子

江戸を中心に町人文化が栄えた文化・文政時代（1804～1830 年頃）の吉原遊廓に焦点を合わせてつくられた妓楼で、使われている木材は国産尾州檜、人形は体高が 20 センチにも満たないものだが、一体一体が精巧に作られており、金糸銀糸が織り込まれ、花や鳥などが刺繍された衣装を身に着けている。各部屋の調度品は、精緻な作りの小物を 400 点近く展示しており、再現された廓の世界に色を添えている。

その他の出品作品



歌川国貞《青楼遊廓娼家之図(青楼二階之図)》文化 10 年(1813) 大英博物館 ©The Trustees of the British Museum.



歌川国貞《美人合 俄》
文政(1818-30)末期
山口県立萩美術館・浦上記念館
展示期間：3月26日(火)～4月21日(日)



酒井抱一《大文字屋市兵衛像》
江戸時代(18～19世紀) 板橋区立美術館



溪斎英泉《新吉原全盛七軒人
松葉屋内粧ひにほひとめき》
文政(1818-30)後期
山口県立萩美術館・浦上記念館
展示期間：4月23日(火)～5月19日(日)

チケット

本展前売券は2月1日（木）から販売中です。また、お得な企画チケットもご用意しています。

観覧料(税込)：当日券 一般 2,000円 高校・大学生 1,200円
前売券 一般 1,800円 高校・大学生 1,000円

※本展は事前予約（日時指定）は不要です。混雑時には入場をお待ちいただく場合があります。

※中学生以下無料。

※障がい者手帳をお持ちの方とその付添者1名は無料（入館の際に障がい者手帳などをご提示ください）。

※前売券は2月1日（木）から3月25日（月）まで販売。

※主なチケット販売サイト：公式チケット（ART PASS）、イープラス、チケットぴあ、ローソンチケット、セブンチケット、Boo-Woo チケットほか。

※チケット購入時に手数料がかかる場合があります。

■前売り平日限定音声ガイドセット券（日本語のみ）

平日限定一般前売券1枚と本展の音声ガイド機レンタル引換券1枚のセット券です。当日会場で音声ガイド機1台をレンタルするより150円お得です。

価格：2,300円（税込）

販売期間：2月1日（木）10:00から3月25日（月）23:59まで ※ただし限定数量に達し次第終了

チケット販売サイト：公式チケット（ART PASS）、ローソンチケット、Boo-Woo チケット

※販売は一般料金のみとなります。

※数量限定での販売です。規定数量に達し次第販売終了とさせていただきます。

※土・日・祝日・休日のご利用いただけません。

※音声ガイドは日本語版のみです。

※ご来場時は必ず音声ガイド引換QRチケット（入場時と同じQRコード）もしくはコンビニで発券したチケット（観覧会入場券、引換券）をお持ちのうえ、音声ガイド貸出カウンターで引換をお願いいたします。

※音声ガイド引換の際にお待ちいただく場合がございます。

※音声ガイドは、当日会場入口にて650円(税込)でレンタルしています。

■お大尽ナイト（VIP Ticket）

吉原の花といえば、言わずと知れた花魁道中。花魁道中とは、上妓が馴染みの客を迎えに廓内の茶屋などへ出向くときのゆきかえりや特定の日に、吉原の目抜き通りである仲の町などを華やかに練り歩く事を指します。

本企画では、開幕前日の美術館をお大尽様の為に特別に開館。吉原狐舞（お神楽）が皆さまをお迎えし、吉原にまつわる名作に囲まれた展示室内の仲の町で、美しい花魁道中をご観覧いただき、閉館前には花魁の舞でお見送り。お大尽様方にはお土産もご用意させていただきます。また、展覧会特設ショップを誰よりも早くご利用いただけます。本企画は本展に花魁が出演する唯一のスペシャルな企画となっています。

なんと！



酒井抱一《大文字屋市兵衛像》（部分）
江戸時代（18～19世紀） 板橋区立美術館

所作監修指導：花柳輔太郎

三味線演奏収録：東音味見純

価格：18,000円（税込）

日時：3月25日（月）17:00～20:00

（16:45～受付開始、19:30 展示室クローズ）

定員：70名

お土産：図録、グッズ（※内容は後日発表）

販売期間：2月1日（木）10:00から3月24日（日）23:59まで

※定員に達し次第終了

チケット販売サイト：公式チケット（ART PASS）

※本展図録とグッズを、当日会場にてお渡しします。

※販売は一般料金のみとなります。

※当日は展覧会特設ショップをご利用いただけます。

※当日は取材カメラが入る可能性がございます。予めご了承の上、チケットをお買い求め下さい。

※当日ご来館いただけなかった場合、チケットのご提示で通常開館にて展示をご覧いただく事が可能です（花魁道中などの企画の実施はございません）。ご来場時に展覧会特設ショップにて、特典の図録、グッズをお渡しいたします。



©Channel47

関連イベント

記念講演会「吉原を見る！」

江戸時代当時の人々が歩いた吉原への道を辿り、大門から入り、吉原の中の構造や情景を見てみます。その上で、吉原の一年の年中行事を巡り、吉原の1日を見てみましょう。さらに、当時の女性たちの中で、遊女がどういう存在だったのか、浮世絵や出版物は遊女をどう描いたのか、さまざまな事例から一緒に考えたいと思います。

講師：田中優子氏（本展学術顧問、法政大学名誉教授）

日時：4月20日（土）14:00～15:30（13:30開場）

会場：東京藝術大学 美術学部 中央棟 第1講義室

※開場時に美術学部 中央棟 1階ロビーにて、ご入場順に席番札をお渡しいたします。
※席番札はご本人様のみへのお渡しとなります。（ご同行者様分をお渡しすることはできません）
※会場の定員に達し次第、受付を終了させていただきます。
※本展をご観覧の方を対象としたイベントです。

田中優子氏 プロフィール

法政大学名誉教授・前総長、江戸東京研究センター特任教授
法政大学社会学部教授、国際日本学インスティテュート（大学院）運営委員長、社会学部長、総長を歴任。専門は日本近世文化・アジア比較文化。研究領域は、江戸時代の文学、美術、生活文化。『江戸の想像力』で芸術選奨文部大臣新人賞、『江戸百夢』で芸術選奨文部科学大臣賞・サントリー学芸賞。その他多数の著書がある。江戸時代の価値観、視点、持続可能社会のシステムから、現代の問題に言及することも多い。2005年度紫綬褒章。現在、一般社団法人日本オープンオンライン教育推進協議会副理事長、人間文化研究機構教育研究評議会評議員、サントリー芸術財団理事、『週刊金曜日』編集委員、TBS「サンデーモーニング」のコメンテーターもつとめる。



その他関連イベントを実施予定！詳細は展覧会公式ホームページにてご案内いたします。

開催概要

大吉原展 江戸アメイジング

Yoshiwara: The Glamorous Culture of Edo's Party Zone

- 会 期：2024年3月26日（火）～5月19日（日）
*会期中、展示替えがあります。
〔前期：3月26日（火）～4月21日（日）、後期：4月23日（火）～5月19日（日）〕
- 会 場：東京藝術大学大学美術館（〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8）
- 開 館 時 間：午前10時～午後5時（入館は閉館の30分前まで）
- 休 館 日：月曜日（ただし4月29日（月・祝）、5月6日（月・振休）は開館）、5月7日（火）
- 主 催：東京藝術大学、東京新聞、テレビ朝日
- 特 別 協 力：台東区立下町風俗資料館、千葉市美術館
- 輸 送 協 力：日本航空、日本貨物航空
- 後 援：台東区
- 助 成：藝大フレンズ賛助金
- 交 通 案 内：JR上野駅（公園口）、東京メトロ千代田線根津駅（1番出口）より徒歩10分
京成上野駅（正面口）、東京メトロ日比谷線・銀座線上野駅（7番出口）より徒歩15分
※駐車場はございません。
- 問 い 合 わ せ：050-5541-8600（ハローダイヤル）
- 展覧会公式ホームページ：<https://daiyoshiwara2024.jp/>

展覧会公式 X (@daiyoshiwara24) では、本展のさまざまな情報を発信していきます。お楽しみに！

報道関係の方からの本件に関するお問い合わせ先
「大吉原展」広報事務局（ユース・プランニングセンター内） 担当：鈴木、大山、池袋
〒150-8551 東京都渋谷区桜丘町9-8 KN渋谷3ビル4階
電話番号: 03-6821-9100 E-mail: daiyoshiwara2024@ypcpr.com